

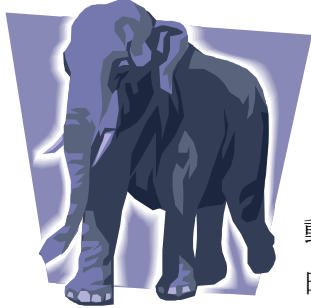
# PostgreSQL で、どーだー！

オープンソースなRDBMS（階層型DB、要は今普通によくあるOracleやらSQLServerやらMySQLのこと）で好評なPostgreSQLの8.0がリリースされました。

（本家<http://www.postgresql.org/> 日本PostgreSQLユーザ会<http://www.postgresql.jp/>）

いろいろと新機能が追加されていますが、なによりも注目すべきことがネイティブにWindowsに対応したことです。これまではLinux上で動かすRDBMSだとのことでWindows好きな、というかライトなユーザは敬遠してきた嫌いがあります。MySQLはWindows対応ですが、日本ではあまり普及していません。オープンソースでフリーなDBと言えば、日本では基本的にこのPostgreSQLでした。だから皆必死にWindowsにLinuxエミュレータを載せ、その上でPostgreSQLを動かしていたのです。PostgreSQLがWindows上でネイティブに動作し、これでいよいよ日本のRDBMSの構図が変わるのではないのでしょうか。

と、ここまで来てこのPostgreSQLってなんだー！？という人のために、基本的なこと。



読み方：“ぼすとぐれす”、“ぼすとぐれえすきゅーえる”、“ぼすとぐれすきゅーえる”

出身地：カリフォルニア大学バークレー校コンピュータサイエンス学科

価格：BSDライセンスによるフリーソフトウェアなので商用非商用問わず無償

動作OS：Linux、FreeBSD、NetBSD、OpenBSD、BSD/OS、Solaris、HP-UX、AIX、そしてWindows

日本語対応：マルチバイト対応なので当然対応

また、PostgreSQLは遂にログからのDB復旧を果たすことができることとなりました。これまでのバージョンではバックアップを取った時点までロールバックするしかなかったのですが、今回からはバックアップした後、エラー発生直前までトランザクションログをロールフォワードすることが可能となりました。ま、そこまで厳密な復旧をようするようなDB用途には向いていなかったということです。日時バックアップでOKという運用なら別に問題ありません。

ただ、気になる点のひとつはDBファイルの肥大化です。これはテーブルレコードを更新した場合の動作として、そのレコードの物理的にあった位置に上書きするわけではなく、その更新前物理位のレコードには削除フラグが立ち、更新されたレコードじゃファイルの最後に追加される仕様で、頻繁な更新があるDBの場合どんどんファイルサイズが大きくなっていってしまうのです。勿論、その無駄な部分を再編成しファイルサイズを小さくするコマンドもありますが、このコマンド実行中はDBの使用が不可能でした。24時間365日ノンストップなシステムにはPostgreSQLは使用できなかったということです。これはVer. 7.2からテーブルロックなしで再編成できるようになり、さらに今回のバージョンでこの処理をシステム負荷が低い時に遅延して行うことができるようになりました。が、なんにせよ、応答速度に影響がありますので、高パフォーマンスを期待するシステムには二の足を踏みます。

でもでも、CSV形式でのデータのインポートエクスポートも可能となり、気楽にうちでもDBを立てられる日常がやってきたのだと思います。DBの勉強をしたい人にはPostgreSQLの使い方もわかって一石二鳥ですね。

そしてPostgreSQL CE (PostgreSQL技術者認定試験) も始まりました。（<http://osb.sra.co.jp/postgresql-ce/>）  
現在Ver7.4のSilver試験（Oracle Silverと同じ程度）しかありませんが今年中にGold試験も始まります。またVer8.0対応試験も準備中です。

PostgreSQL8.0リリースのこの機会に、一気にPostgreSQLスペシャリストになってみませんか。

おわり

20050125 Maki Rouel

